

レベル	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4	副師長	看護師長	准看護師
卒年	卒後 1年	卒後 2～3年	卒後 4～主任前	主任			
イメージ	援助が必要なレベル	少しの援助で自律できるレベル	自分の考えで行動が出来るレベル	チームメンバーに指導できるレベル	部署を牽引出来るレベル	組織に貢献できるレベル	安全なチームプレイが出来るレベル
定義	マニュアルに沿って指導を受けながら看護を実践する	マニュアルに基づき日常的に必要な看護実践はほぼ単独で実施できる	看護実践モデルとなり後輩を育成できる	個の実践アップだけでなく他者へ影響力を与え、チームメンバーに指導できる	看護実践のトップリーダーとして担当部署の目標達成に貢献する	中間監督者として組織の方針を理解し、スタッフ指導とともに組織に貢献できる	
到達レベル	① 日常生活援助の為の基本技術、態度を身につけベッドサイドケアが安全・確実にできる。 受け持ち患者のケアを通して、看護の知識・技術が深められる。 ② 社会人・職業人として良識ある行動が取れる ③ 院内研修に参加する。 ④ 看護研究に関心が持てる。	① 看護過程をふまえた個別的ケアが実践できる。 ② チームメンバーの役割と責任を果たす。 ③ 院内研修を実践に活かせる。 ④ 課題を研究的に取り組むことができる。	① 専門領域における看護実践の役割モデルとなれる。 ② 看護実践場面でのリーダーシップが発揮できる。 ③ 後輩及び看護学生に対して指導的になれる。 ④ 看護研究を通じて専門看護を深める。	① 看護師として役割モデルとなり、専門性を発揮できる。 ② 看護単位における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる。 ③ 指導的役割がとれる。 ④ 看護研究を通じて専門看護を深め、変革の推進者となる。	① 看護実践のトップリーダーとして、現任教員の中心的役割を担う ② 看護単位における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる ③ 副師長の役割を認識し、師長を補佐する ④ 看護研究の指導・助言ができる	① 良い看護サービスの継続的行動ができるためのマネジメントができる。 ② 広範囲な知識で病院運営の動向をふまえた行動を起こし、業務の遂行ができる。 ③ 人間的に豊かな感性を持ち行動できる。(人柄、信頼できる) ④ 担当責任者として他と連携をとり、看護部としての行動ができる。	① 専門領域における看護実践の役割モデルとなれる。 ② 看護場面でのリーダーシップが発揮できる。 ③ 良い看護のためのチームプレイができる。 ④ 後輩指導ができる。
項目	内容	内容	内容	内容	内容	内容	内容
看護実践能力（倫理含む）	① 意図的に情報収集し簡潔に記載できる。 ② 情報を基に看護領域の問題点をあげることができる。 ③ 指導者の意見を聞いて計画をたてることができる。 ④ 患者の安全安楽を考えたケアが実践できる。 ⑤ 客観的データや身体上の変化を観察し報告できる。 ⑥ 実践したケアについて正確に報告できる。 ⑦ 患者急変時の基本的知識・技術を学び、的確な報告が出来、指示の元で行動が出来る。 ⑧ 倫理綱領について知っている	① 患者の全体像が捉えられるような情報収集ができる。 ② 患者のニーズを見極め、優先順位を考え問題点をあげることができる。 ③ 患者のニーズを踏まえた解決可能な計画が立案できる。 ④ 看護単位で必要な看護技術が正しく確実に実施できる。 ⑤ 客観的データや身体上の変化を観察し判断できる。 ⑥ 看護技術を実施するときは、資料や人的資源を活用できる。 ⑦ 実施したケアの妥当性を評価できる。 ⑧ 患者急変時に迅速に正確な情報を得て、相談が出来る ⑨ 臨床倫理を理解し、現実の間のジレンマを経験し対処に努める。	① 家族や社会問題について意図的に情報収集できる。 (他の医療チームメンバーからも意図的に情報を得る。コミュニケーション技法を用いる) ② 潜在している問題を明らかにできる。 ③ 潜在している問題や予測できる問題について対策できる。 ④ 熟練した看護技術を用いてケアができ、他のメンバーに指導できる。 ⑥ 提供した看護ケアが患者のニーズを満たしたか同僚と評価できる。 ⑤ 患者急変時にすばやく対処できる ⑥ 倫理と現実のジレンマを客観的に考察し、対処に努め、後輩に助言できる	① 問題の領域に的を絞り、選択的に情報収集できる。 ② 深く広い知識と経験を活かし、即座に的を得た看護判断ができる。 ③ 計画立案時、スタッフや他医療チームからの相談に応じられる。 ④ 多様なアプローチを組み入れて看護ケアが実践できる。 他のスタッフのモデルとなれる。 ⑥ 提供したケアについて質的、量的に評価し自他共にフィードバックできる。 ⑤ 患者急変時にリーダーシップを発揮し対応できる。 ⑦ ジレンマに遭遇している患者・家族の苦痛を受け止め、意思決定を助けることができる 医療チーム内の調整が出来る	① 実践の場において、スタッフに適切な指導・助言ができる ② 倫理的配慮や根拠に基づいた看護を効果的に実施するための指導ができる ③ 医師及び他部門との連携においてリーダーシップが発揮できる	① 患者・家族の情報を的確に把握し、適宜提供できる。 ② 看護の問題を明確化し問題解決指向ができる。 ③ スタッフの能力、組織的な力を高める看護計画を立案できる。 ④ 看護の継続のための指導ができる。 ⑤ 看護実践の倫理的配慮について指導できる。 ⑥ 根拠に基づいた看護が効率よく提供されたか評価できる。	① 複雑な問題を持つ患者に対して、確実に看護展開ができる。 ② アセスメントに理論を活用する。 ③ カンファレンスを活用し、受け持ち患者の看護の評価を客観的な視点で行う。 ④ 熟練した看護技術を他のメンバーに伝達できる。 ⑤ 患者急変時に適切に対応できる。
組織的役割遂行能力	① 看護単位の特殊性と業務内容について説明できる。 ② 看護単位の目的・目標を知り、その達成の為に活動に参加する。 ③ チームメンバーの役割・機能を発揮する。 ④ 看護業務の経済的側面に注意を払うことができる。 ⑤ 看護部内のシステム・ルールを知っている。 ⑥ 災害時対策について説明でき、災害時指示のもと行動ができる。 (通報・患者誘導・非常持ち出し品・火元点検・初期消火等)	① 看護単位の環境・物品に気を配り、看護管理上の問題について考えることができる。 ② チームメンバーと共に看護単位の問題について情報交換・意見交換できる。 ③ 病院や看護単位の委員会活動に参加し活動する。 (委員会からの決定事項がわかり、自発的に実践する。) ④ 災害時対策について説明でき、災害時指示のもと行動ができる。 (通報・患者誘導・非常持ち出し品・火元点検・初期消火等)	① 看護単位の目標達成のための活動を促進し、その達成度の評価に参加している。 ② 看護スタッフの業務量や行動に注意を払うことができる。 ③ 看護単位で実施しているケアの質の評価に参加している。 ④ 看護単位の業務の改善点について創造的な意見を述べるができる。 ⑤ 物品管理に関わる支援・サービス部門の役割を理解し、それらを活用できる。 (医療機器・事務用品・薬品・設備備品) ⑥ 緊急時・災害時に適切に対処できる	① 患者ニーズとスタッフの能力を考慮し、管理代行業務ができる。 ② 看護管理上の問題発見やその解決の為の方策を師長と共に考えることができる(患者ケア、看護スタッフの育成、看護単位の運営、他部門との連携) ③ 看護単位の活動と方針の作成に参加し、それを推進している。 ④ 看護単位の代表として委員会に参加し会議の推進役ができる。 ⑤ スタッフのパイプ役として機能する。 ⑥ 緊急時・災害時、リーダーシップが発揮できる	① 補佐業務上の問題発生時に的確な判断と、対処ができる ② 経済性や効率性を考えたスタッフ指導ができる ③ 看護単位の活動と方針に関わり、成果をあげる ④ 看護管理(看護ケア、看護スタッフの育成、看護単位の運営、他部門との連携)上の問題の発見や解決に主体的に関わる ⑤ 緊急時・災害時に、部署の危機管理が出来る	① 安全な看護の提供のために総合的な安全管理ができる。 ② 看護単位の活動と方針を作成し実践できる。 ③ 経営効率、経済効果を考慮した病棟管理ができる。 ④ 組織が円滑に機能するよう委員会、会議を企画し、効率よく運営・推進できる。 ⑤ 危機管理ができる。 ⑥ 職員の心身の健康管理に関して注意を払い、指導・援助できる。	① 環境整備に関する院内のシステムがわかり、活用できる。 ② 各委員会からの決定事項がわかり自発的に実践できる。 ③ 看護単位の環境や備品に気を配り意見を述べるができる。 ④ 勤務中に生じた緊急事態に適切に対処できる。
自己教育能力	① 院内教育プログラムに参加する。 ② 院内研修会、看護単位の勉強会等に積極的に参加する。 ③ 看護に関わる法律を知っている。 ④ 事例をまとめ報告できる。 ⑤ 学生の実習に配慮できる。 ⑦ 研究に関心を持ち参加しようとする意欲がある。 ⑧ 看護単位の疾患看護に関連した看護研究論文を読む。	① 参加した教育プログラムの内容をチームに伝達することができる。 ② 専門的知識・技術を同僚と共有し活用できる。 ③ チームメンバーに対し人的資源として機能する。 ④ 受け持ち看護師の体験を通して主体性が身につく。 ⑤ 看護技術の習得、看護過程の展開において学生を援助することができる。 ⑥ 看護研究チームの一員として研究に取り組むことができる。	① 看護単位の教育プログラムに積極的に参加し、指導者としての役割がとれる。 ② 専門知識を活用しスタッフの教育指導ができる。 ③ プリセプターの役割がとれる。 ④ 看護実践に関して学生・研修生の指導ができる ⑤ 医療チームにおこる様々な関わりの中で倫理的、道徳的なジレンマに対処できる。 ⑥ 自主的に様々な研修に参加し、高いレベルで専門的知識・技術を保持する。 ⑦ 自己の研究テーマを持ち、研究としてまとめることができる。 ⑧ 看護研究を計画し、スタッフとして取り組むことができる。	① スタッフ育成のためのプログラムを計画し実施できる。 ② スタッフの能力開発、人間の成長を支援することができる。 ③ 臨床専門領域に関係する教育プログラムに参加し、その結果を有効に活用できる ④ 看護管理に関して、学生・研修生の指導ができる。(患者ケア、看護スタッフの育成、看護単位の運営、他部門との連携) ⑤ 看護研究をすすめ、院内外に広めることができる。 ⑦ 看護研究を臨床に応用できる。	① 同僚評価に関わり、スタッフ育成を支援する ② スタッフが専門性を発揮できるように支援し活動する ③ 現場教育をプログラム、実践、評価できる ④ 看護研究を指導できる ⑤ 研究的取り組みの成果を評価、改善、推進できる。また組織に働きかける ⑥ 院内外の研究会に積極的に関わる	① 教育的な職場環境づくりができる。 ② 看護専門職育成のための能力開発プログラムを作成し、実践できる。 ③ 職員の学習成果を客観的に評価できる。 ④ 指導者・後継者を育成している。 ⑤ 看護管理に関して看護職員・学生・研修生の指導ができる。(患者ケア、看護スタッフの育成、看護単位の運営、他部門との連携) ⑥ 看護研究に取り組みやすい環境づくりができる。 ⑦ 看護研究・開発に関しての指導ができる ⑧ 研究の成果を看護実践に活用し、研究への意欲につなげる。 ⑨ 学会発表や紙上発表を奨励し支援する。	① 経験未熟な看護スタッフに必要な知識と技術の伝達ができる。 ② 専門的知識・技術を同僚と共有し活用できる。 ③ 様々な研修会、学習会に進んで参加し、高いレベルで専門知識・技術を保持する。 ① 看護研究に自発的に参加する。 ② 研究成果に基づく実践に意欲的に参加、協力する。